

ペットと住むなら秦野

～市民力で日本一、水無川風の道から始まる
幸せ実感オンリーワンなまちづくり～

秦野市次世代育成アカデミー（高田ゼミ）

指導職員	人事課長	高田 保
アドバイザー	高齢介護課	清重 祥子
研修生	企画課	富樫 透
	資産税課	田邊 健
	戸籍住民課	久保谷央絵
	森林づくり課	吉田 健智
	道路整備課	山田 政和



1 過去～現在～未来（秦野市を取り巻く状況の変化）

項目	1985(S60)		2015(H27)		2040(H52)
人口	141,803人	↗	168,732人	↘	148,582人
年少人口	33,680人(24%)	↘	20,348人(12%)	↘	18,611人(12%)
生産年齢人口	98,458人(69%)	↗	104,648人(62%)	↘	77,152人(52%)
老齢人口	9,665人(7%)	↗	42,724人(26%)	↗	52,819人(36%)
生産年齢人口:老齢人口	10.1:1	↘	2.4:1	↘	1.5:1
高齢化率	6.8%	↗	25.5%	↗	35.5%

※秦野市人口ビジョンより

人口減少・少子高齢化社会の影響

- 社会保障費の増加による厳しい財政状況
- 労働力人口の減少による地域経済の縮小
- 地域活動の担い手減少によるまちの活力衰退、コミュニティの縮小



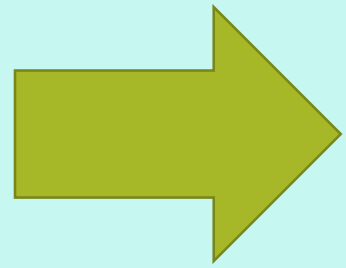
- 行政計画モデルの縮小！
- 住民自治の拡大による福祉・貢献モデルの進展！
- 時間・空間に余裕！

1 過去～現在～未来(生活者のライフスタイルの変化)

国連環境計画「サステナブル・ライフスタイルに関するグローバル調査」日本調査結果(H21)より 18～35歳男女対象

理想的な生活	
1位	楽しい(幸せな)生活
2位	自然環境と共存する 持続可能な生活
3位	好きなことができる 自由な時間があること
4位	経済的余裕 家族・家庭
5位	助け合い・協力

ほどほどのものとお金、豊かな 自然環境の中で、人間的で暮らしよい等身大の暮らしを求めている



2040年、次世代の居住者が望むことは？

- ・都会より郊外で**自然環境と共存した持続可能な生活**
- ・他者との協力・貢献で**幸せを実感できる環境**
- ・仕事だけでなく文化・遊びなどを楽しめる環境
- ・健康的に暮らせる環境
- ・多様な主体が活躍できる場や機会

2 未来社会の創造に向けて

私たちの考える未来のまちづくりの5つの方針

- 1 **オンリーワンなまちづくり**
～特定分野のトップリーダー、郷土愛・地域アイデンティティの醸成～
- 2 **次世代も住み続けたいと思うまちづくり**
～持続可能なまちの実現～
- 3 **市民力を活かしたまちづくり**
～新たなコミュニティの形成、住民自治の拡大～
- 4 **ライフスタイルの変化に合ったまちづくり**
～次世代が望む生活を実現～
- 5 **ストック(地域資源)を活かしたまちづくり**
～なるべくお金をかけずに既存の経営資源に付加価値をプラス～

3 政策のテーマ

ペット共生都市

“ペットとの共生”に特化した 市民
が幸せを感じるまちづくり



なぜペットとの共生？

- 1 ペット共生のまちづくりに未開拓部分が多く、ペットとの共生を総合的にプロデュースして「**まちの魅力**」を高めている自治体は、**全国どこにもない**。



全国自治体の取組み状況

狂犬病予防法、感染症法(厚生労働省)

動物愛護法(環境省)



- 1 動物愛護の普及啓発
- 2 犬や猫の致死処分数を抑制するための対応
- 3 近隣関係のトラブルや苦情への対応
- 4 動物取扱業者に対する監視指導業務
- 5 動物と取り巻く課題解決に向けた民間団体との協働
- 6 災害時の動物の取り扱い
- 7 虐待・多頭飼育・不適切飼養問題

先進事例1 京都府京都市の取組み



1 京都市動物との共生に向けたマナー 条例の基づく主な取組み

- (1) 所有者明示
- (2) 飼い猫の室内飼養
- (3) 多頭飼育の届出
- (4) 飼い犬のふん尿被害防止策
- (5) 不適切な給餌の禁止等
- (6) 勧告及び命令

2 「人と動物のよりよい関係づくり」を目指す 主な取組み

- (1) 京都動物愛護センターを拠点とした啓発事業の実施
- (2) 教育機関等との連携による動物愛護教育の実施
- (3) ペットに係る災害時の対策
- (4) 動物由来感染症対策
- (5) 動物愛護ボランティア等の育成と調査研究の推進



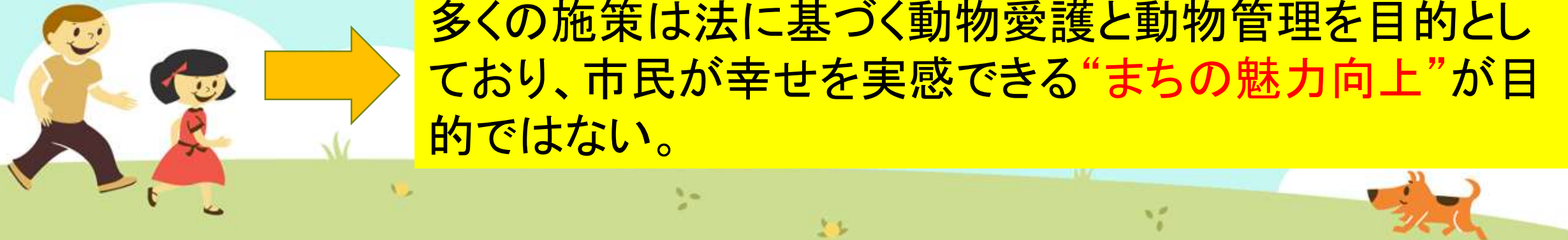
先進事例2 神奈川県の実践

1 神奈川県動物愛護管理計画に基づく 主な取り組み

- (1) 動物愛護管理に関する普及啓発
- (2) 動物の収容数減少への取り組み
- (3) 動物の返還・譲渡の推進
- (4) 所有明示の推進
- (5) 動物による危害や迷惑の防止
- (6) 遺棄・虐待防止の取り組み
- (7) 動物取扱業の適正化
- (8) 実験動物及び産業動物の適正な取扱いの推進
- (9) 人と動物の共通感染症への取り組み
- (10) 災害時対策 ほか

2 神奈川県動物保護センターの主な取り組み

- (1) 動物ふれあい教室
- (2) ふれあい動物ひろば
- (3) 動物愛護のつどい
- (4) 夏休み飼育体験教室
- (5) コンパニオンアニマル活動
- (6) 犬・猫の譲渡会
- (7) 特定動物の飼育許可、動物取扱業の登録受理等
- (8) 動物取扱責任者研修
- (9) 動物由来感染症対策事業



多くの施策は法に基づく動物愛護と動物管理を目的としており、市民が幸せを実感できる“**まちの魅力向上**”が目的ではない。

なぜペットとの共生？

1 ペット共生のまちづくりに未開拓部分が多く、ペットとの共生を総合的にプロデュースして「まちの魅力」を高めている自治体は、全国どこにもない。

2 ペットと人の関係性が変化したことで、その変化の隙間にまちづくりのチャンスとなる *** ニッチ市場が生まれている。**

* ニッチ市場

市場全体の一部を構成する特定のニーズ(需要、客層)を持つ規模の小さい市場のこと。狭義には、その中でも商品やサービスの供給・提供が行われていない市場とされる。隙間市場(すきましじょう)ともいう。

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』



ペットを取り巻く環境の変化 人間との関わり

時代	人間との関わり
戦前	産業動物(牛や馬)との関わり、狩猟犬、番犬
高度経済成長期以前	ペットの所有化 放浪犬(猫)、野犬が多数存在
高度経済成長期以後から現在	ペットブーム、放浪犬等が撲滅 ペットの家族化、擬人化

犬・猫の飼育数

全国(H28.10)
1,974万頭 > 年少人口**1,578万人**

秦野市(H28.10)
24,888頭 > 年少人口**19,882人**

※日本ペットフード協会資料及びその推計を準用



犬・猫の飼育数 > 年少人口。ペットの家族化・擬人化。しかし、“ペットとの共生”をまちの魅力向上につなげる施策に取り組む自治体は少ない。そこに**“ニッチ市場”**が生まれている。



秦野市の位置・採用すべき戦略

~~トップリーダー(トップ1自治体)~~
~~チャレンジャー(次の2~20自治体)~~
~~フォロワー(数百~数千の自治体)~~

ニッチャー(特定分野のトップリーダー)

なぜペットとの共生？

- 1 ペット共生のまちづくりに未開拓部分が多く、ペットとの共生を総合的にプロデュースして「まちの魅力」を高めている自治体は、全国どこにもない。
- 2 ペットと人の関係性の変化したことで、その変化の隙間にまちづくりのチャンスとなるニッチ市場が生まれている。

3 秦野市には、ペットとの共生に適した“緑豊かで潤いのある環境”があることから、お金をかけずに既存のストック（地域資源）に付加価値をつけることで、まちの魅力を最大限に引き出すことができる。



秦野市が誇る“緑豊かで潤いのある環境”



ペットとともに過ごせる“魅力ある地域資源”が豊富にあり、そこに付加価値を付けることで、さらにまちの魅力を高めることができる。



なぜペットとの共生？

- 1 ペット共生のまちづくりに未開拓部分が多く、ペットとの共生を総合的にプロデュースして「まちの魅力」を高めている自治体は、全国どこにもない。
- 2 ペットと人の関係性の変化したことで、その変化の隙間にまちづくりのチャンスとなるニッチ市場が生まれている。
- 3 秦野市には、ペットとの共生に適した“緑豊かで潤いのある環境”があることから、お金をかけずに既存のストック（地域資源）に付加価値をつけることで、まちの魅力を最大限に引き出すことができる。

4 市民力を活かすことで、新たな文化が創造され、市民自らが幸せを実感できるまちづくりができる。



なぜペットとの共生？

- 1 ペット共生のまちづくりに未開拓部分が多く、ペットとの共生を総合的にプロデュースして「まちの魅力」を高めている自治体は、全国どこにもない。
- 2 ペットと人の関係性の変化したことで、その変化の隙間にまちづくりのチャンスとなるニッチ市場が生まれている。
- 3 秦野市には、ペットとの共生に適した“緑豊かで潤いのある環境”があることから、お金をかけずに既存のストック（地域資源）に付加価値をつけることで、まちの魅力を最大限に引き出すことができる。
- 4 市民力を活かすことで、新たな文化が創造され、行政に頼らなくても、市民自らが幸せを実感できるまちづくりができる。

5 モラルやマナーが向上することで、ペット嫌いな人に対する配慮が行き届き、行政課題を減らすことができる。



アンケート調査 ペット飼育による迷惑

回答	割合(%)
1 飼い主のマナーが悪い	25.2
2 猫がやって来てふん尿をしていく	17.1
3 鳴き声がうるさい	14.3
4 犬の放し飼い	13.0
5 危害が加えられるおそれがある	8.6
6 悪臭がする	8.3
7 病気が人に移る	5.6

※内閣府による動物愛護に関する世論調査(2010)結果概要より

飼い主のマナーや、猫のふん尿、鳴き声の問題など、ペットのしつけ、飼い主のモラルを向上させることで“**行政課題の解決**”につながる



4 政策プログラムの提案

ペットと住むなら秦野

～市民力で日本一、水無川風の道から始まる
幸せ実感オンリーワンなまちづくり～



アンケート調査

犬の飼育上、不便・不都合なこと

回答	割合(%)
(1) 医療費が高い	42.8
(2) 犬と一緒に旅行ができない	32.4
(3) 犬を連れて、飲食店に入れない	27.5
(4) 犬を連れて、泊まれる宿泊施設が少ない	24.6
(5) 安く預けられる場所(ペットホテル等)が少ない	22.6
(6) 犬を遊ばせる公園が少ない	18.9
(7) ケージ無しで、公共交通機関を利用できない	15.3
(8) 外出先でリードを繋ぐ場所が少ない	11.2
(9) 犬と共生できるような住宅環境が整っていない	9.1



※「一般社団法人日本ペットフード協会調査(平成28年度)20代～60代対象(複数回答)」より

ニーズに即した政策プログラム

政策1 犬・猫住民票発行による各種サービスの提供

政策2 犬人会・猫人会の発足

政策3 水無川風の道リードポール事業

政策4 全天候型ドッグランの整備

政策5 公民連携によるペット関連サービスの充実



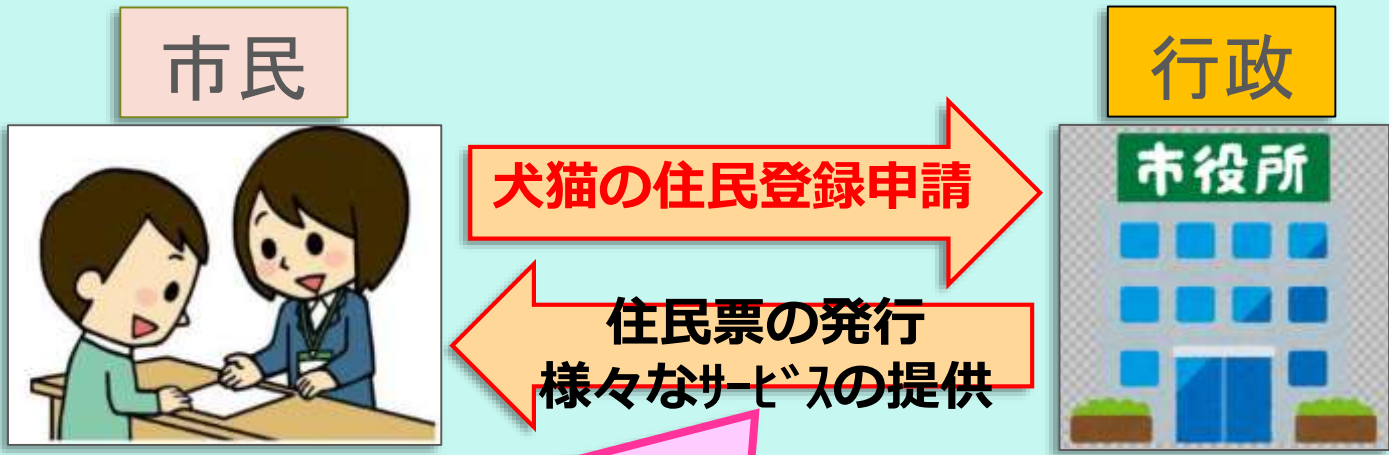
政策1 犬・猫住民票発行による各種サービスの提供

ペットが市民の一員と実感できるまち



政策1 犬・猫住民票発行による各種サービスの提供

市民(飼育者)からの住民登録の申請により、市役所が飼い犬(猫)の住民票を無料で発行し、ペットに関連する様々なサービスを提供します。



住民登録受付・情報登録
(犬：狂犬病予防法に基づく登録
猫：法に基づかない任意登録)

- ◎ 愛犬(猫)手帳、個性的な鑑札の発行
- ◎ ペットサービスマップの提供
- ◎ 狂犬病予防接種や、避妊、去勢手術助成等の案内
- ◎ 猫に対するマイクロチップ装着促進事業の案内
- ◎ ペット関連情報メールの配信など・・・

事業効果
ペットが市民の一員と実感

狂犬病予防法に基づく登録数の増加
飼い猫数の把握
効果的に必要な情報の案内が可能

広域避難所におけるペット同行避難対策などに活用



**まちへの愛着度向上
市民満足度・市民サービス向上**

政策1 犬・猫住民票発行による各種サービスの提供

(1)犬・猫住民票



(例:板橋区)

(2)鑑札



(例:名古屋市)

(3)愛犬(猫)手帳

「健康状態の記録」のほか、「飼育の際の決まり事」などを掲載

(例:大田区)



(4)ペットサービスマップのイメージ

ペットに関連する様々な情報を掲載

- ・動物病院の情報
- ・ペット同伴可施設（店舗等）の情報
- ・市内のオススメ散歩コースの情報
- ・住民票提示による民間サービス（特典等）の情報など

秦野市ペットサービスマップ

- A社
- B社
- C社
- D社



ペット同伴可施設
 オススメ散歩コース

ペット同伴不可施設
 住民票提示サービスあり

政策2 ^{ワン}犬人会・^{ニャン}猫人会の発足

ペットを通じて会話が弾むまち



市民の自発的な意思を支援し、ペット飼育者等による新たなコミュニティを組織し、交流の場・生きがいの場・貢献の場の創出を図ります。

ほかの飼育者と話したいな！

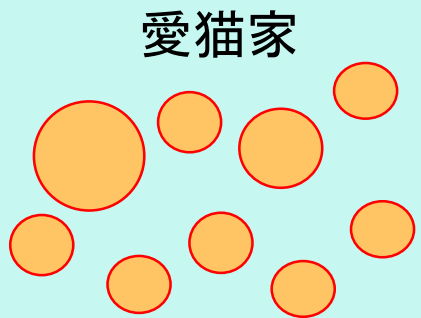
行政・関係団体のコーディネート

もっと色々な交流やイベントをしたい！

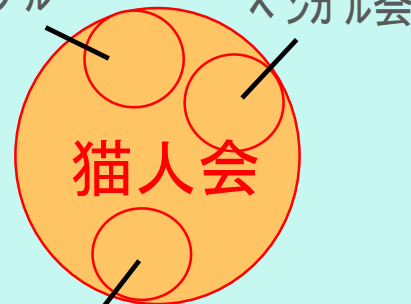
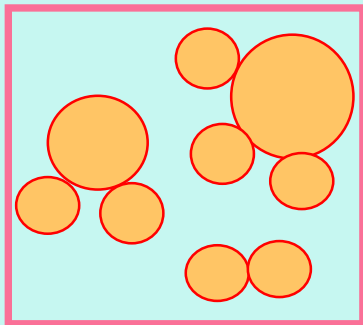
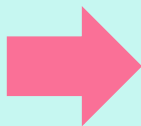
個人又は少人数

ペット飼育者同士の交流・情報交換の場

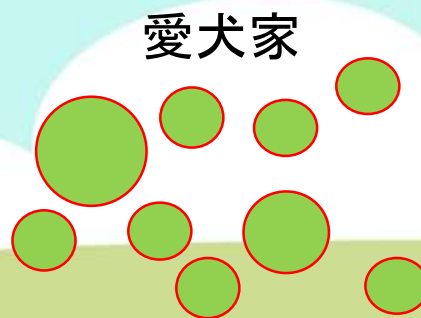
組織の立ち上げ



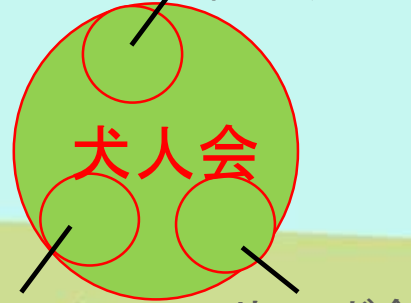
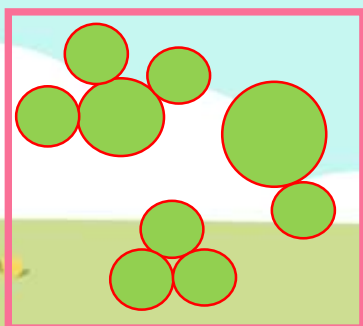
愛猫家



猫人会



愛犬家



犬人会

チワワ会 サモエド会

犬（猫）人会事業の例

季節ごとの会員交流会の実施

犬猫祭りの開催

フォトコンテストの開催

しつけ教室の開催



イメージ

例) 朝の公園ウォークin弘法山

将来的には、飼育者同士の意識の高まりから、市民・行政・民間企業・関係機関との相互協力により、動物マナーの向上や動物愛護意識の醸成等へ活動の場が広がります。

マナーやモラルが高いまちにしたい！

災害時も安心してペットと避難したい！

可愛がっているペットの老後が心配！



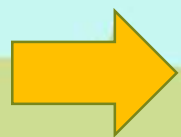
- 犬（猫）人会事業の例**
- 会員交流会の実施
 - しつけ教室の開催
 - 飼育マナー・モラルの普及啓発
 - ペット同行避難への協力
 - ペットの老後・ペットロスへの支援
 - 地域猫活動への協力
 - 市・動物保護センター等主催事業への協力

事業効果

交流の場・生きがいの場・貢献の場の創出、まちへの愛着度の向上

動物マナーの向上、動物愛護意識の醸成

市民力の向上、行政課題の解決



犬・猫コミュニティ日本一のまち

政策3 水無川風の道リードポール事業

ペットとともに過ごす癒しの空間



水無川風の道構想



市民生活に潤いを持たせる空間の創出と
市域の活性化に向けた連携軸の整備


秦野市のシンボルのひとつである「水無川」を活かし、兩岸の空間や緑地、木々等の既存の資源を有効活用しながら、自然豊かな丹沢山塊の“緑の清々しさ”や“水の清らかさ”が、丹沢の山々から戸川公園を通過し、市内中心部へさわやかな風となって流れてくることをイメージした整備をしていきます。

範囲：水無川とその兩岸道路周辺

区間：秦野戸川公園～新常盤橋（約 7.5km）



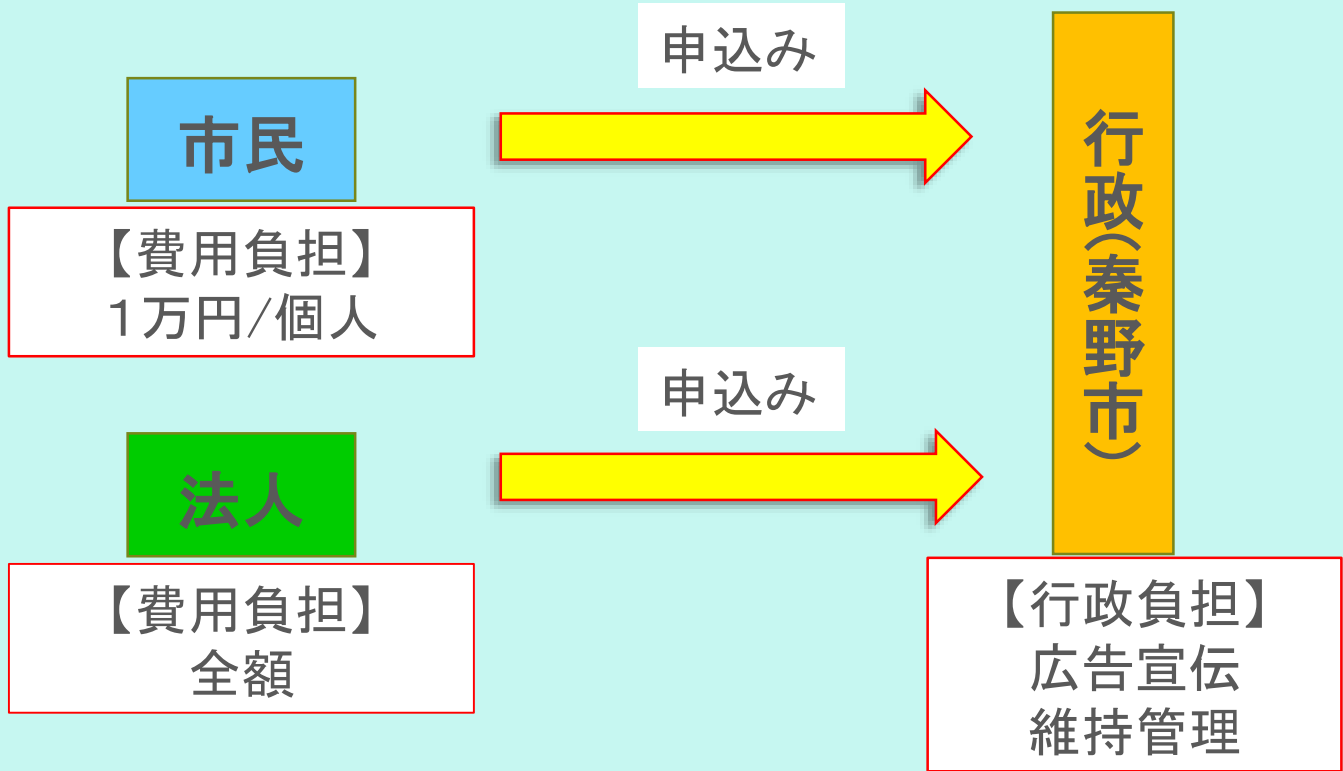
水無川の河川敷・カルチャーパーク・周辺店舗等に複数のリードポールとふんの持ち帰り用袋を設置し、ペットとともに過ごす癒しの空間を創出します。



設置日・愛犬の名前や企業名等を記載

ポールにふんの持ち帰り用袋を設置

設置費用 約5万円
設置本数 50本



事業効果

愛着度向上、社会貢献、企業の宣伝広告、顧客との絆、ストックの魅力向上、市民・観光客の満足度向上

観光地や公共施設、店舗等への広がり
ネーミングライツも検討

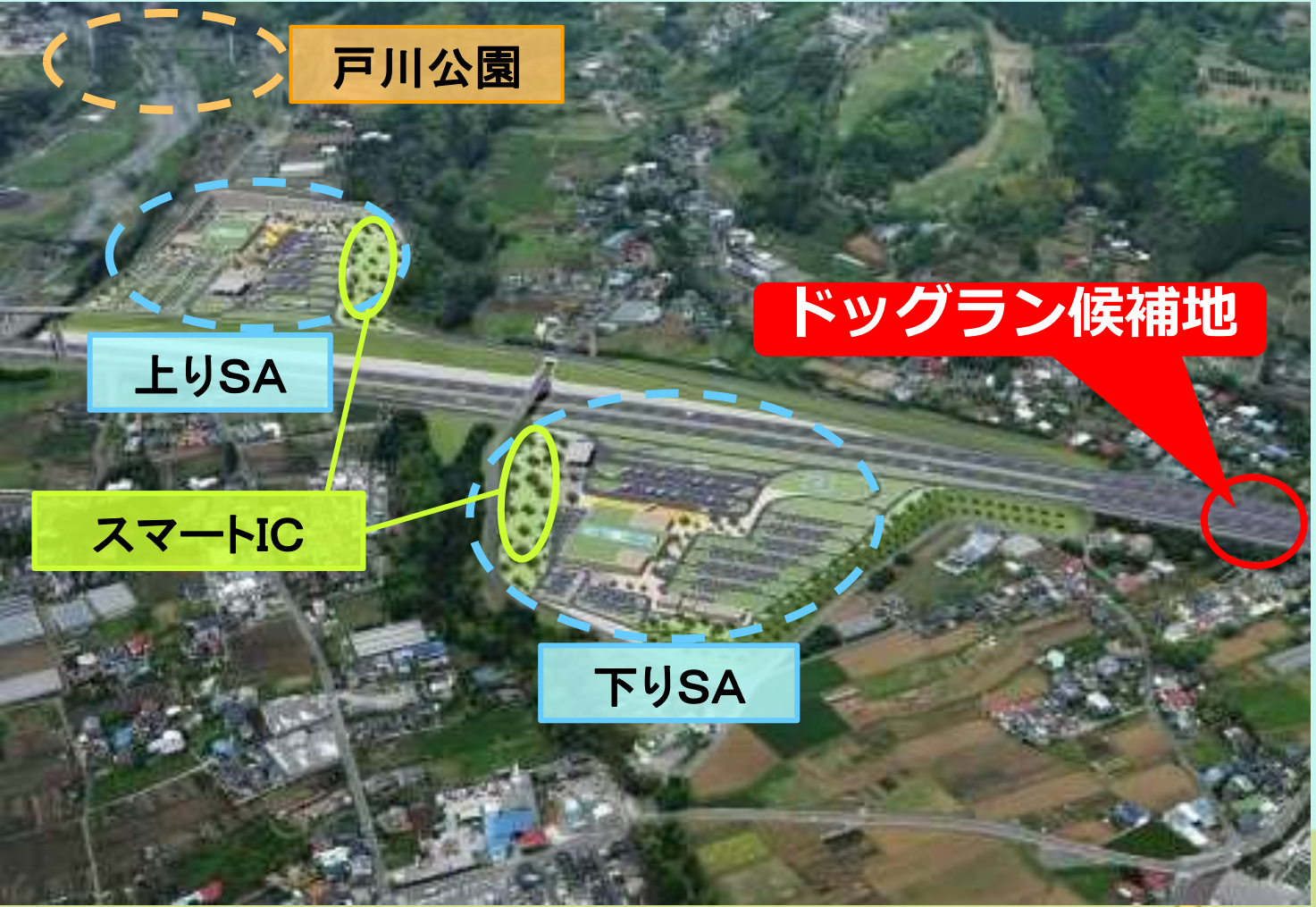
リードポール数 日本一のまち

政策4 全天候型ドッグランの整備

ペットとともに楽しく健康的に暮らせるまち



新東名高速道路秦野SA(仮称)近くの高架下(デッドスペース)を活用した全天候型ドッグランを整備し、秦野市に訪れるきっかけを提供します。



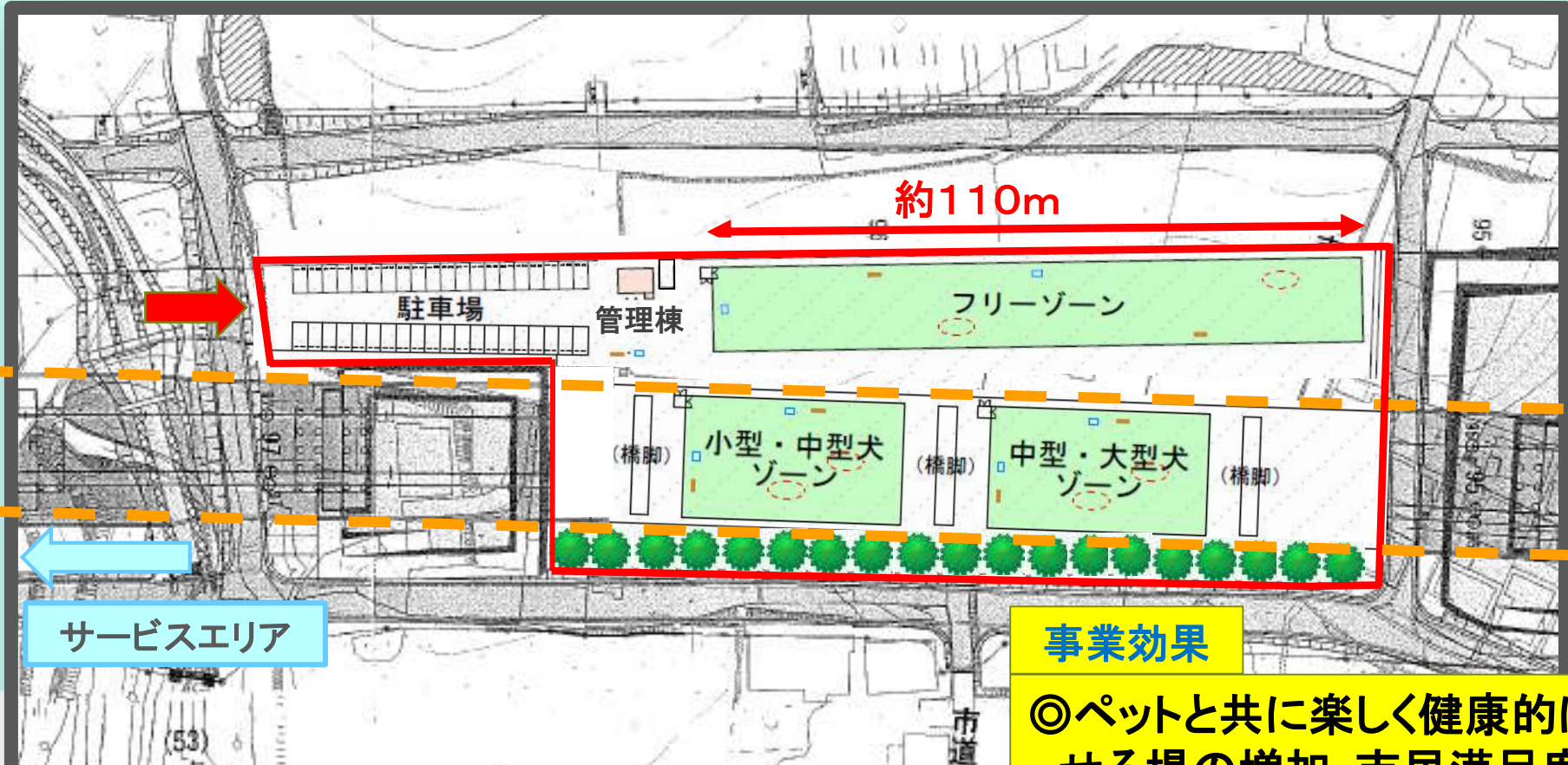
「高架下」のメリット

- 市民 都市住民** 雨の日でも安心な犬の散歩・遊び場。SA近くの利便性
- 高速道路 事業者** デッドスペースの活用 草刈などの管理業務の軽減
- 行政** 土地の取得費ゼロでフェンスに囲われた広大なスペースを利用



高架下を活用したドッグランの例

SA周辺の高架下を活用したドッグランのイメージ



高架下

サービスエリア

事業効果

特徴

- ◎近隣にない広大で全天候型 **高い集客力**
- ◎SA・スマートインター近く **高い利便性**
- ◎戸川公園等その他周辺施設 **高い相乗効果**



- ◎ペットと共に楽しく健康的に過ごせる場の増加・市民満足度の向上
- ◎SA周辺一体の魅力の向上
- ◎都市住民等が本市を訪れるきっかけの創出
- ◎地域経済の活性化

政策5 公民連携によるペット関連サービスの充実

ペットとともに快適に暮せるまち



政策5 公民連携によるペット関連サービスの充実

人とペットとの関わり方の変化により、親が子どもに「してあげたい」「必要だ」と考えるほとんどすべてのサービス・商品に対し、ペット市場は潜在的に存在

ペットのライフスタイルと関連するサービス・製品



誕生

- 生体販売
- しつけ教室
- 保育園

暮らし

- ペット共生住宅
- ペットフード
- ケージ等用品
- 洋服類
- トリミング
- SNS
- 見守り
- お見合い

レジャー等

- ドッグラン
- テーマパーク
- 同伴旅行
- 同伴カフェ
- ペットホテル
- ペットタクシー

健康医療

- 保険
- 動物病院
- 健康管理 (ウェアラブル等)
- サプリメント
- 療法食
- 高度医療

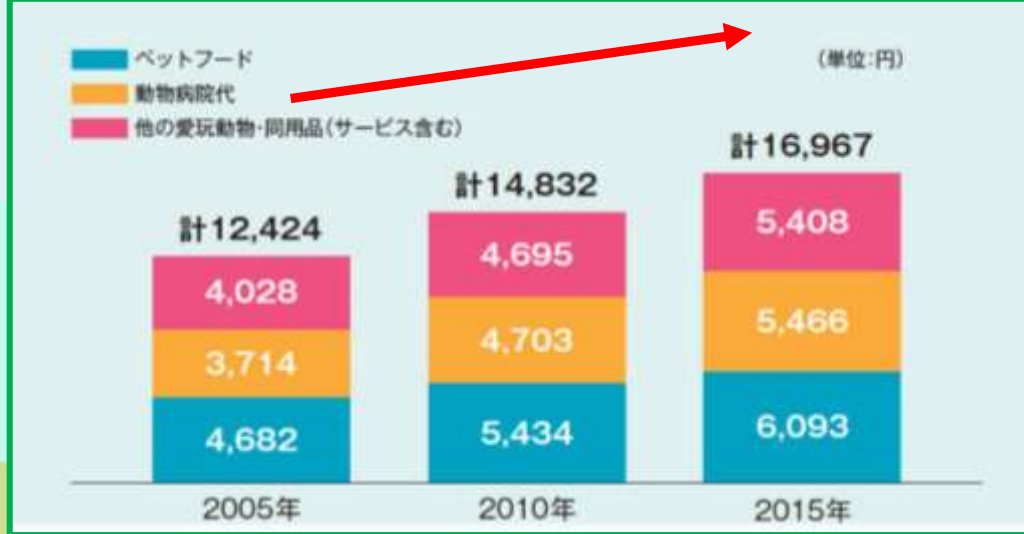
高齢化

- 老犬老猫ホーム
- 葬儀



ペットビジネスの市場規模は約1兆4000億円を超え
1世帯あたりのペット関連支出も上昇が続く

1世帯あたりのペット関連支出(年間の推移)



民間専門ノウハウと行政情報の公民連携により、地域課題を解決しながら、ペット関連サービスを充実させ、ペットとともに快適に暮せるまちを創出します。

政策5 公民連携によるペット関連サービスの充実

公民連携事業(例) 「IoT×ペットと散歩」

市民の協力と公民連携で事業の実証実験・共同開発

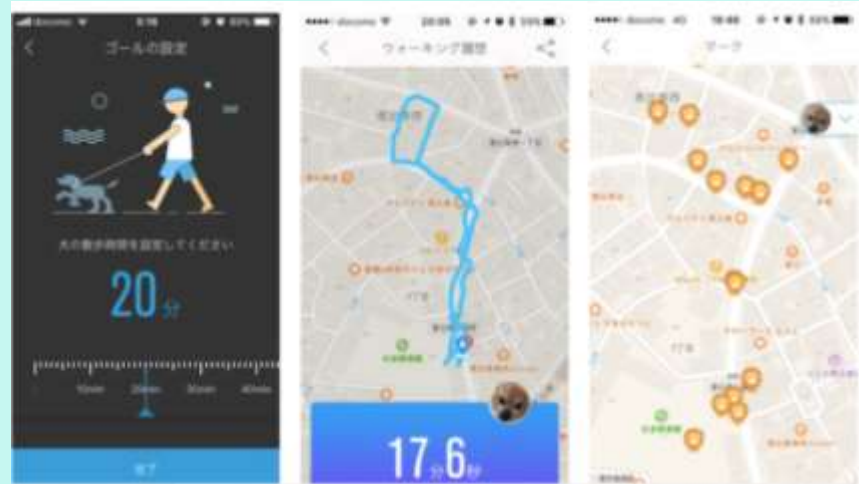
◎民間サービス 「ペットスマートリード」



価格
約1万円

スマホアプリと連動し、ペットをリードにつないで散歩に行くだけで、歩いた時間、距離、経路を記録。思い出の記録や健康管理ができる。

「ペット散歩アプリ(SNS連動)」



「クラウドファンディングサイトmachi-yaより」

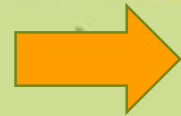
◎公民連携で開発・設置

「まちなかサービス」(スマートリードや散歩アプリと連携)

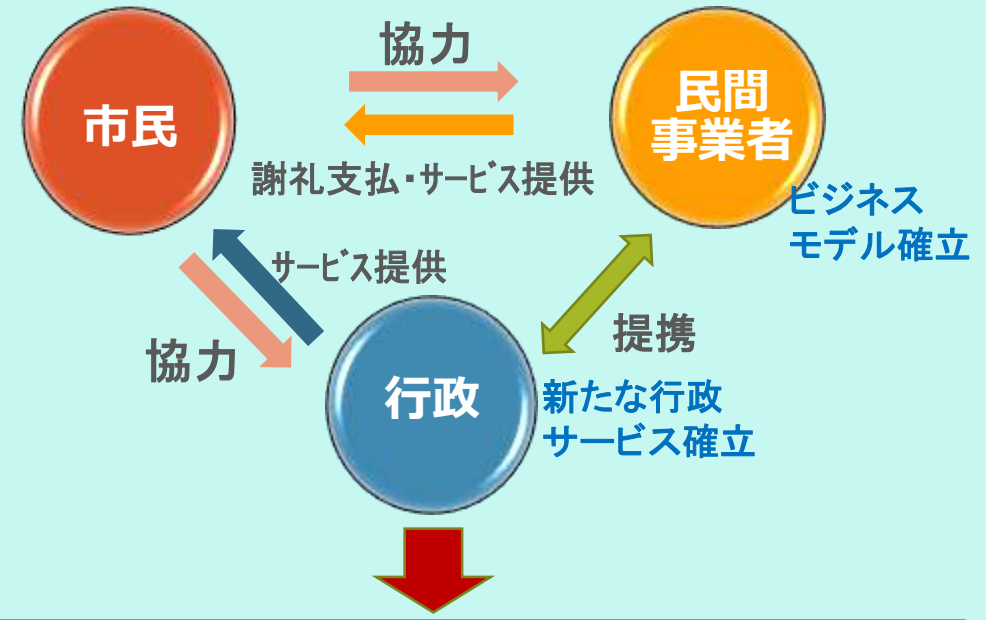
市民の散歩データやニーズ調査等を踏まえ、公園・散策路・店舗等に位置情報システム等を使った散歩が楽しくなる仕組み(まちの秘密探索、ゆるキャラと記念撮影、店舗特典等)を行政と民間事業者が共同で開発・設置

事業効果

まちの魅力向上、ペットと散歩する市民・観光客の増加、ペット関連情報の発信



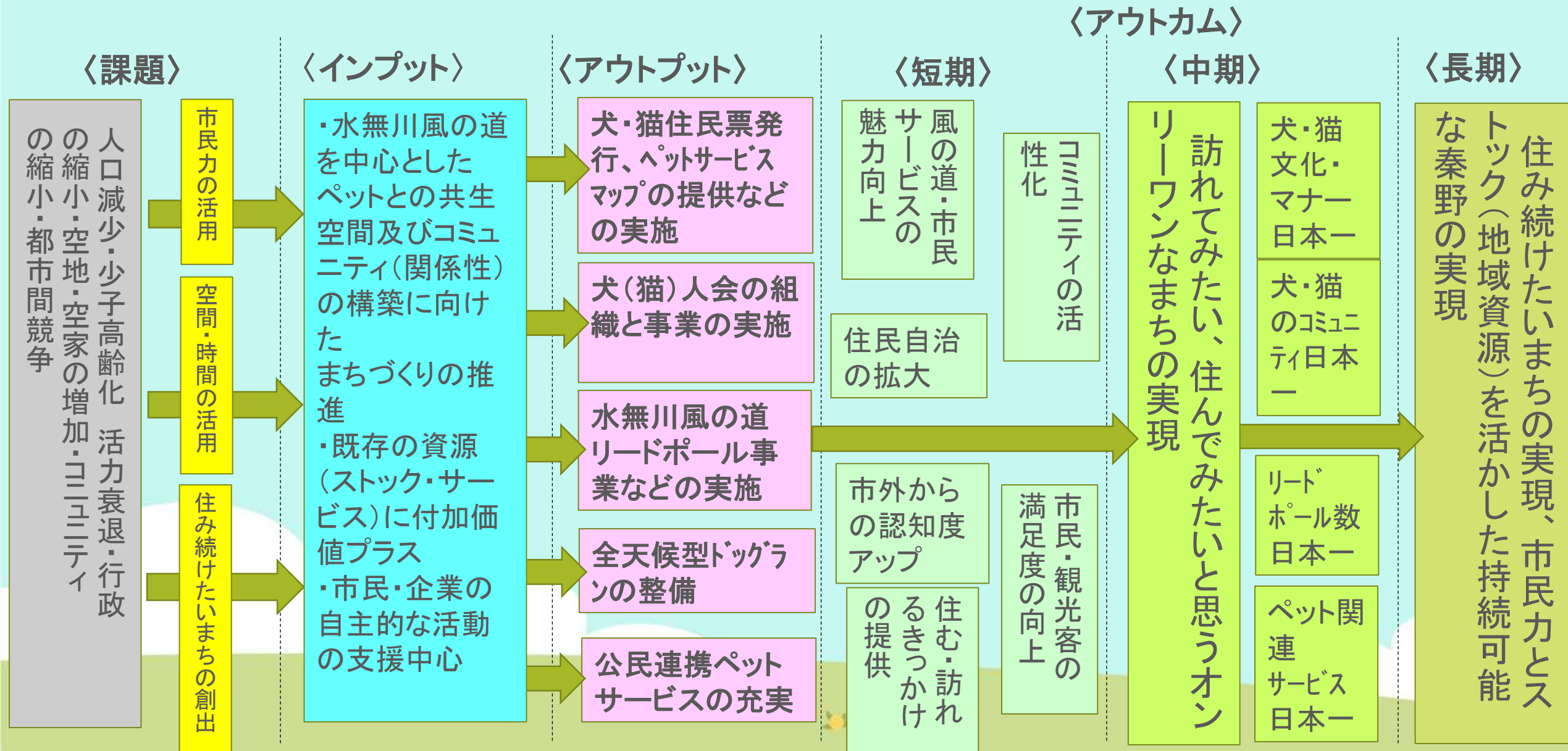
愛着・満足度向上、人もペットも健康増進、見回り効果によるまちの安心・安全性の向上、地域活性化



市民・観光客等へサービスの提供

- 市民・観光客** 楽しくペットと散歩(まち歩き)
- 民間事業者** スマートリード販売、アプリ・SNSの運営 (収益増、他サービスへの送客効果)
- 行政** 高齢者・観光客等にスマートリード貸出、ペット関連サービス・観光情報・コミュニティ・マナー等の情報発信

政策プログラムのロジックモデル



ペットと住むなら秦野

”ペットを飼っている人にはもっと心地よく、
ペットを飼っていない人にはもっと配慮ができる、
そんなペットと共生したまちを私たちは目指します”

都市像： みどり豊かな暮らしよい都市(まち)

— 丹沢の水と緑にはぐくまれ人が輝き躍動する交流都市 —

とペット

実現すれば、オンリー **ワン!**

